

1970年ごろ

- 人口1億400万人で増加中
- 平均寿命は男性69歳、女性75歳
- 65歳以上の人口割合7%
- 8.5人の現役世代で高齢者1人を支える
- 出生数は年190万人
- 1人暮らしの単身世帯20%
- 専業主婦世帯の方が多数
- 初婚年齢男性27歳、女性24歳
- 生涯未婚者男性2%、女性3%

現在

- 人口1億2700万人
- 平均寿命は男性79歳、女性86歳
- 65歳以上の人口割合22%
- 3人の現役世代で高齢者1人を支える
- 出生数は年107万人
- 1人暮らしの単身世帯30%
- 共働き世帯の方が多数
- 初婚年齢男性30歳、女性29歳
- 生涯未婚者男性16%、女性7%
- 若年者の非正規雇用が増大
- 転職が増加

年金制度、改正されますよ

平成25年に向けて大改正

私たち老後のマネープランを支える「年金制度」が、平成25年に向けて大きく改正されます。

政府はこのほど「新たな年金制度の基本的考え方について(中間まとめ)」を発表しました。現在の年金制度の基礎は、今から40年ほど前の1960～70年ごろの状況をもとに作られたものです。しかし、その当時と現在では日本の姿は大きく異なっています。

例えば1970年の人口は1億400万人でしたが、その後増加し、現在は1億2700万人です。ただし、2005年に戦後初の減少に転じ、およそ35年後には1億人を切る水準にまで減少することが予想されています。

高齢化社会が進展

また、日本人の平均寿命は1970年当時は男性69歳、女性75歳でしたが、現在は男性79歳、女性86歳と、男女とも10歳以上長生きをするようになりました。高齢化率(65歳以上の人口割合)は、1970年当時は7%でしたが、現在はおよそ3倍の22%、さらに40年後には、40%台にまで上昇するとみられています。

一方、1年間に生まれる赤ちゃんの数は、1970年当時は190万人でしたが、現在は107万人、2050年には48万人程度まで減少すると推測されています。これらの結果、1970年には8.5人の現役世代で1人の高齢者を支えていた人口構造が、現在は3人で1人、さらに2055年には1.2人で1人を支える姿になると予測されています。

つまり年金制度が作られた40年前と現在では、状況が大きく変化している、ということです。ですから今の年金制度をこのまま続けることは困難です。

みんなでしっかり見守ろう

今回の年金改正では、国が日本の将来の姿をしっかりと見据え、国民が納得して保険料を納められるよう、そして年金記録に間違いがなく、安心して年金を受取ることができるよう、分かりやすい制度に改正されるよう、私たちがしっかりと見守る必要があります。



暮らしのマネープラン
相談センター所長

サーティファイド
ファイナンシャル
プランナー 高橋 昌子

あなたの暮らしと財産を守るパートナー

■トータルマネープラン …………… 4回/3万円

(資産運用、保険、年金などの総合的アドバイス)

■マイホーム資金計画・住宅ローン 4回/3万円

(無理のない予算、購入時期、最適のローン等アドバイス)

■住宅ローンの見直し …………… 2回/1万円

(見直し・借り換えの効果、借り換えローン等アドバイス)

■生命保険の見直し …………… 2回/5000円

(保障内容の分析、加入・見直し、商品選択等アドバイス)

■年金・老後資金プラン(退職準備) 4回/3万円

(個人年金、役立つ金融商品、各種手続き等アドバイス)

■相続に関する相談 …………… 5回/5万円

(遺産整理、相続対策、遺言書、相続手続き等のアドバイス)

※予約が必要です。

※回数は目安です。

